

Oracle Developer Server for Sun SPARC Solaris

リリース・ノート

リリース 6.0

部品番号 A63045-1

はじめに	4
Oracle Developer Server	5
Project Builder	7
Forms	7
Reports	21
Graphics	26
Query Builder	28
Schema Builder	29
Procedure Builder	29
各国語サポート	31
その他	37

ORACLE

Oracle Developer Server for Sun SPARC Solaris

リリース・ノート

リリース 6.0

1999 年 5 月

部品番号: A63045-1

原本名: Oracle Developer Server Release 6.0 Doc Addendum

Copyright © Oracle Corporation, 1998.

All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付き権利の説明

プログラムの使用、複製、または開示は、オラクル社との契約に記された制限条件に従うものとします。

本書の情報は、予告なしに変更されることがあります。本書に問題を見つけた場合は、当社にコメントをお送りください。オラクル社は、本書の無謬性を保証しません。

危険な用途への使用について

当製品は、原子力、航空産業、大量輸送、または医療の分野など、本質的に危険を伴うアプリケーションを用途としては特に開発されておりません。当社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は顧客各位の責任と費用により行っていただきたく、万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましたも、当社および開発元である米国 Oracle Corporation (その関連会社も含みます。) は一切責任を負いかねます。

ORACLE は、Oracle Corporation の登録商標です。

本文中の他社の商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

はじめに

このリリース・ノートについて

このリリース・ノートは現時点での最新の情報にもとづいています。本書の後に明らかになった情報については、通常のサポート情報で入手できます。

このリリース・ノートでは、Oracle Developer Server リリース 6.0 とマニュアルに記述されている機能との違いについて説明します。

サポートしているプラットフォーム

データベース: Oracle7 7.3.4

Oracle8 8.0.4 注(3)

Oracle8 8.0.5 注(1)

Oracle8i 8.1.5

アプリケーション・サーバー: Oracle Application Server 4.0.7 注(2)

サポートしている OS: Solaris 2.5.1

Solaris 2.6

注意:

- (1) 推奨するデータベース。Oracle8 8.0.5 だけが、同じ Oracle Home ディレクトリで Oracle Developer Server リリース 6.0 と共存できます。Oracle8 8.0.5 の製品版の使用に基づいています。
- (2) Oracle Developer Server 6.0 でサポートしているリリースは、Oracle Application Server 4.0.7 だけです。
- (3) Oracle8 8.0.4 は、Oracle Developer Server リリース 6.0 と同じ Oracle Home ディレクトリに共存できません。

Oracle Developer ライセンス

Forms、Reports または Graphics アプリケーションの開発には、Oracle Developer のライセンスが別途必要となります。本製品では、開発済みのアプリケーションの Web での運用のみが許諾されています。ライセンスに関する詳細情報については、同梱の「プログラム・ユーザー証書」をご覧ください。

Oracle Developer と Oracle Developer Server は、2つの別の CD-ROM で配布されるもので、Oracle Developer には Oracle Developer Server とは別のライセンスが必要です。

Oracle Developer Server

日付処理

Oracle Developer Server の日付処理に関する重要な情報は、
<http://support.oracle.co.jp/year2000/> を参照してください。さらに、リンクに従って White Papers のページに進んで、参照してください。

既知の問題点

同一 Oracle_Home での旧バージョンとの共存

Oracle Developer/2000 Server 1.6.1 と Oracle Developer Server 6.0 は同じ ORACLE_HOME に共存できます。

Oracle Application Server のリリース

Oracle Developer カートリッジを導入してテストするためには、Oracle Application Server リリース 4.0.7 をインストールする必要があります。

PLL ファイルのアップグレードでコマンド行に必要な .PLL 拡張子

パッチ・ファイルを使用して.PLL ファイルのアップグレードをする場合は、そのパッチ・ファイルに拡張子.PLL を付けてください。そうでない場合は、「FRM-10043:ファイルを開けません」というエラーになります。

データベース・オブジェクト名への英数字以外の文字使用

Oracle Developer Server 6.0 では、表または列の名前について、ASCII 文字を使用する場合、英数字以外 (!や*など) の使用を、サポートしません。

Solaris での Motif のパッチ

Motif 1.2 ランタイム・ライブラリのパッチ 105284-20 が、Solaris 2.6 上での Oracle Developer Server 6.0 のパッチ・レベルとして最低限のものです。

Net8 Easy Configuration ツール

TNSNAMES.ORA ファイルの編集をガイドする Net8 Easy Configuration ツールは、Oracle Developer Server 6.0 の最初のリリースでは使用できません。サービス名を構成するには、手作業で構成ファイルを編集してください。

TNSNAMES.ORA ファイルの詳細は、『Net8 スタート・ガイド』マニュアルを参照してください。

Oracle Developer Server 6.0 と互換性のあるプリコンパイラ

Oracle プリコンパイラを使用して Oracle Developer Server 6.0 にユーザー・イグジットを作成する場合は、Oracle 8.0.5 データベース・リリースに使用されているリリースのプリコンパイラを使用してください。

Unix の場合の ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数

Unix プラットフォームの場合、ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数にオンライン・マニュアルの場所を設定してください。この環境変数のデフォルト値には、アメリカ英語版のオンライン・マニュアルの場所 (\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/US) が設定されています。日本語版のオンライン・マニュアルを参照する場合は、ORAINFONAV_DOCPATH 環境変数に、\$ORACLE_HOME/doc60/admin/manuals/JA を設定してください。

Oracle Developer Server Online Manuals の Configuring the Oracle Developer Server

Oracle Developer Server の設定方法が説明されている、Oracle Developer Server Online Manuals(Information Navigator)の「Configuring the Oracle Developer Server」は英語です。邦訳されたものは、日本オラクルの Web サイト

<http://www.oracle.co.jp/download/>
より提供されます。上記サイトへアクセスの上、ダウンロードをお願いします。

Oracle Developer Server 6.0 マニュアルの PDF ファイル

製品に添付される「スタート・ガイド」と「アプリケーション作成ガイド」の英語版 pdf ファイルは、<Oracle_Home>/doc60/admin/manuals/US/gs60 および<Oracle_Home>/doc60/admin/manuals/US/guide60 にインストールされます。

Project Builder

現時点では既知の問題はありません。

Forms

Web の利用

既知の問題点

「Applet->Reload」メニュー項目が正しく機能しません。

アイコンのイメージが、Web にロードされない場合があります。この現象は偶発的に発生するもので、将来のバージョンで修正される予定です。

UNIX プラットフォームでは、Forms の Web クライアントへのイメージ送信時に作成される一時作業ファイルが、システム・コールを使用します。このシステム・コールは、一時作業ファイルを FORMS60_OUTPUT 変数で定義されたディレクトリ上に書き出しますが、TMPDIR 変数が設定されているときは、TMPDIR 変数で定義されているディレクトリに書き出します。この処理を避けるには、TMPDIR 変数の設定を解除して、FORMS60_OUTPUT 変数が正しく使用されるようにしてください。代替案としては、FORMS60_OUTPUT 変数と FORMS60_MAPPING 変数を、TMPDIR 変数と同じ場所に設定する方法があります。

イメージは Form Builder の「Web でフォーム実行」を使用しているときには、表示されません。

FORMS60_OUTPUT 変数の値を環境変数に設定するときは、出力ディレクトリにボイラープレート・イメージやイメージ・ファイルがロードされる際の問題を回避するために、末尾にスラッシュを付けないでください。

MESSAGE ビルトインは、異なる PL/SQL コマンドで実行されている場合でもメッセージ・ボックスを出します。クライアント・サーバーでは、メッセージ行にだけメッセージを表示します。そして、MESSAGE ビルトインの 2 回目のコールから、メッセージ・ボックスに前のコマンドのメッセージを表示します。

HTML ファイルの変更

<ORACLE_HOME>/tools/devdem60/web ディレクトリにある、HTML のサンプル・ファイル、cartridg.htm と static.htm を参照してください。

HTTP の機能

HTTP 機能は、Oracle Developer Server 6.0 ではベータ機能として使用できます。HTTP モードで Forms Server Listener を実行するには、次のようにします。

```
f60srvm mode=HTTP
```

Forms Server Listener は、ソケットと HTTP を同時に使用して実行できます。
ただし、異なるプロトコルの場合は、別々のポートを使用します。

Developer Server の HTTP/1.1 機能を使用するには、HTML ファイルに異なる
Forms アプレットを指定してください。

ソケット	HTTP
-----	-----
oracle.forms.engine.Main	oracle.forms.engine.MainHTTP

たとえば、次の HTML ファイルは、HTTP 機能を使用して Forms アプリケーションが実行できるように構成されています。

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE>Webforms</TITLE>
</HEAD>
<BODY>

<applet codebase="/forms_jar/"
        code="oracle.forms.engine.MainHTTP"
        width=700
        height=550>

<param name="proxyHost" value="my-proxy-machine.com">
<param name="proxyPort" value="80">
<param name="serverHost" value="my-server-machine.com">
<param name="serverPort" value="9000">
<param name="serverArgs" value="module=my_module
                                userid=my_name/my_passwd@my_db">
```

```
</applet>
```

```
</BODY>  
</HTML>
```

「Web でフォーム実行」ボタン

オブジェクト・ナビゲータとレイアウト・エディタの「Web でフォーム実行」ボタンは、Windows NT プラットフォームのみで使用可能です。他のプラットフォームでは、「クライアント/サーバーでフォーム実行」、「デバッグでフォーム実行」の 2 つのボタンになります。

スプラッシュ画面

現在、サーバーから Form がロードされる前にスプラッシュ画面が表示されます。このスプラッシュ画面を無効にするには、次のように Forms のパラメータ `splashScreen` を「no」に設定してください。

```
<param name="splashScreen" value="no">
```

カスタム・スプラッシュ画面を使用する場合は、次のようにします。

```
<param name="splashScreen" value="custom.gif">
```

上記の `custom.gif` ファイルは、HTML ファイルと同じディレクトリ上に入れてください。

デフォルトの背景ウィンドウ

MDI ウィンドウの背景は、カスタマイズすることができます。デフォルトの背景を使わずに Web で Forms を実行する場合は、次のように `background` パラメータを「no」に設定してください。

```
<param name="background" value="no">
```

また、背景に別の画像を使う場合、例えば、別の背景として `foo.gif` を使用する

場合は、HTML ファイルと同じディレクトリ上に foo.gif ファイルを置き、次のように background パラメータを foo.gif に設定します。

```
<param name="background" value="foo.gif">
```

別のウィンドウでの Forms アプレットの実行

Forms アプレットを別のウィンドウで実行する場合は、次のように Forms のパラメータ separateFrame を「True」に設定してください。

```
<param name="separateFrame" value="true">
```

Oracle のルック・アンド・フィール - カラー・スキーマ

スライダ、ウィジェット、ウィンドウ・バーなどの背景色を変更する場合、次の値を HTML ファイルに使用することができます。

```
<param name="colorScheme" value="teal">  
<param name="colorScheme" value="titanium">  
<param name="colorScheme" value="red">  
<param name="colorScheme" value="khaki">  
<param name="colorScheme" value="blue">  
<param name="colorScheme" value="olive">  
<param name="colorScheme" value="purple">
```

HTML ファイルの例

```
<HTML>  
  
<!-- FILE: static_jinit.html -->  
<!-- Oracle Static (Non-Cartridge) HTML File Template (Solaris)  
-->  
<!-- Tags and parameters have been modified for Oracle
```

```

JInitiator -->

<HEAD><TITLE>Developer Server and Oracle
JInitiator</TITLE></HEAD>

<BODY>
<P>
<OBJECT classid="clsid:9F77a997-F0F3-11d1-9195-00C04FC990DC"
        WIDTH=180
        HEIGHT=20
        codebase="http://mymachine/jinit.exe#Version=1,1,7,11"
        >
<PARAM NAME="CODE"          VALUE="oracle.forms.engine.Main" >
<PARAM NAME="CODEBASE"      VALUE="/form60code/" >
<PARAM NAME="ARCHIVE"       VALUE="/form60code/f60all.jar" >
<PARAM NAME="type"          VALUE="application/x-jinit-
                                  applet;version=1.1.7.11">
<PARAM NAME="serverPort"    VALUE="9000">
<PARAM NAME="serverArgs"    VALUE="module=fmx_name
                                  userid=user/password@datasourc">
<PARAM NAME="serverApp"     VALUE="default">
<PARAM NAME="lookAndFeel"   VALUE="oracle">
<PARAM NAME="colorScheme"   VALUE="teal">
<PARAM NAME="splashScreen"  VALUE="no">
<PARAM NAME="background"    VALUE="no">
<PARAM NAME="separateFrame" VALUE="true">
<COMMENT>
<EMBED type="application/x-jinit-applet;version=1.1.7.11"
        java_CODE="oracle.forms.engine.Main"

```

```
java_CODEBASE="/form60code/"
java_ARCHIVE="/form60code/f60all.jar"
WIDTH=180
HEIGHT=20
serverPort="9000"
serverArgs="module=fmx_name
            userid=user/password@datasource"
serverApp="default"
lookAndFeel="oracle"
colorScheme="teal"
splashScreen="no"
background="no"
separateFrame="true"
pluginspage="http://mymachine/jinit_download.htm">
<NOEMBED>
</COMMENT>
</NOEMBED></EMBED>
</OBJECT>
</BODY>
</HTML>
```

カスタム JAR ファイルの署名

Oracle Developer Server リリース 6.0 で配布されるクラス・ファイルは一部だけが署名されており、権限を持つクライアントが信頼されたアプレットを実行する場合のパフォーマンスを向上させています。

スタックに存在するクラスが署名されたクラスファイルであるときに、信頼されたアプレットは、ソケット接続を確立して、警告メッセージを出さずに最上位レベルのウィンドウを表示することができます。また、署名されているクラスの数を削減することで、Forms アプリケーションの起動にかかる時間を著し

く減少させることができます。

アプレットの起動パフォーマンスの改善には上記の方法論が使えます。もっとも簡単な方法は、署名の必要があるクラスとそうでないクラスを別の JAR ファイルに分割することです。この方法が適さず、署名するクラスも署名しないクラスも同じアーカイブに共存させる必要がある場合は、次の手段をお勧めします。

既存の JAR にあるクラス・ファイルの一部だけに署名することはできないので、まず、署名する必要のあるすべてのクラスで JAR ファイルを作成して署名をし、それから残りのクラス・ファイルを追加します。JAR ユーティリティにはアップグレード・オプションはありませんが、既存のアーカイブへのクラス・ファイルの追加には、Zip ツールが使用できます。

オンデマンド・ローディング機能

この機能により、起動時に、比較的小さい JAR ファイルをロードすることができます。他の JAR ファイルは、中に含まれているクラスが必要なときにロードされます。この機能を使用するためには、HTML ファイルの ARCHIVE タグを、f60splash.jar、すなわち、初期化に必要なクラスだけが入った小さな JAR ファイルの値に変更します。

f60common.jar、f60help.jar、f60rest.jar、f60resources.jar および f60oracle_laf.jar ファイルは、必要時にロードされます。つまり、起動時には forms クラスの一部分だけをロードするので、フォームがより迅速に立ち上がります。

プラグ可能な JAVA 構成要素

dispatchCustomEvent メソッドは、標準的な JAVA イベントモデルに従って、非同期式で動きます。このメソッドでは、ロックせずにすぐに戻ります。

ActiveX (OCX) コントロール

ActiveX コントロールは Windows プラットフォーム以外ではサポートしません。

Forms と Graphics の統合

Unix プラットフォームでのチャート・ウィザード

チャート・ウィザードは、Unix プラットフォーム上の Oracle Developer リリース 6.0.5 ではサポートされていません。

ボイラープレート・オブジェクトへの可視属性の指定

Forms 6.0 では、四角形、枠、線などのボイラープレート・オブジェクトに、可視属性を指定することができます。ボイラープレート・オブジェクトのプロパティ・パレットで、可視属性プロパティを設定できます。

新しいシステム変数

SYSTEM.EVENT_CANVAS

:System.Event_Canvas 変数は、When_Tab_Page_Changed トリガーが起動されたときの該当キャンバスの名前を返します。既存のタブ・ページ・システム変数 (:System.Tab_Previous_page 変数など) に変更はありません。When_Tab_Page_Changed トリガーのときだけ、このシステム変数を参照します。このシステム変数は、他の場合に有効または正確であるという保証はされていません。

記載されていないエラー・メッセージ (FRM-99999)

オンライン・ヘルプに記載されていない、Forms のエラー・メッセージは、いずれも次のような共通のメッセージを表示します。

FRM-99999: エラー: FRM>NNNNN が発生しました。このエラーに関する情報は、リリース・ノートを参照してください。

これらのエラー・メッセージの詳細は、次の項で説明します。

追加メッセージ

FRM-10905: 次の戻り値は無効です。

原因: 無効な戻り値を修正してからでないと、このウィザードのページか

らは出られません。

処置: 有効な戻り値を入力してください。戻り値は次のいずれかです。

- 1.完全な修飾子のついた項目名 (<BLOCK_NAME>.<ITEM_NAME>) 。
- 2.Form パラメータ (PARAMETER.<PARAMETER_NAME>) 。
- 3.PL/SQL のグローバル変数 (GLOBAL.<VARIABLE_NAME>) 。

FRM-10906: 1 つまたは複数の値リスト列の幅が負数になっています。

原因: 表の 1 つまたは複数の値リスト列の幅が負数になっています。

処置: 幅が負数になっている表の列がないように確認してください。

FRM-10907: 値リストのサイズ、または位置が負数になっています。

原因: 値リストのサイズと位置の属性の 1 つまたは複数が負数になっています。

処置: 幅が負数になっている、値リストのサイズと位置の属性がないように確認してください。

FRM-10908: 検索して取り出す行数が 0 以下です。

原因: 検索して取り出す行数が 0 以下です。

処置: 検索して取り出す行数に 1 以上の値を入力してください。

FRM-10909: 古い書式の値リストを、値リスト・ウィザードを使用して変更することはできません。

原因: 古い書式の値リストに対して、値リスト・ウィザードが起動されました。

処置: レコード・グループに基づいて、新規に値リストを作成してください。

FRM-18114: FORMS60_JAVADIR が設定されていません。

原因: Windows NT 上で Form Builder からの Web プレビューが機能するには、レジストリ変数の FORMS60_JAVADIR が、FormsJava ファイルが置いてある場所を指している必要があります。この変数は、Oracle Developer Forms のインストール時に Oracle Installer によって設定されています。この変数の標準的な値は c:\orant\forms60\java です。

処置: NT 上のレジストリ変数 FORMS_JAVADIR を作成、または、更新して、Forms Java ファイルが置いてある場所を指す値を設定してください。

FRM-18115: CLASSPATH 変数が設定されていません。

原因: Web 上で Forms を実行するには、環境変数 CLASSPATH が、有効な Java がインストールされている場所を指している必要があります。この変数は、Oracle Developer Server のインストール時に Oracle Installer によって設定されています。

処置: 環境変数 CLASSPATH を作成、または、更新して、有効な Java がインストールされている場所を指す値を設定してください。

FRM-18116: CLASSPATH 変数に Forms への参照が含まれていません。

原因: Developer Server が機能するには、環境変数 CLASSPATH に、Oracle Forms に必要な Java ファイルが置いてある場所を指す項目が含まれている必要があります。この項目は、Oracle Forms のインストール時に Oracle Installer によって既存の CLASSPATH 変数に追加されています。

処置: 環境変数 CLASSPATH を作成、または、更新して、Oracle Developer Server の必要とする Java ファイルが置いてある場所を指す値を設定してください。

FRM-18117: 存在しない HTML ファイルへの参照が、設定項目に含まれています。

原因: 作業環境ダイアログの「ランタイム」で、HTML ファイルが指定されいますが、その HTML ファイルが存在していないか、または、指定された場所が存在しません。

処置: 作業環境ダイアログの「ランタイム」で、障害になっている HTML ファイルへの参照を削除してデフォルトの HTML ファイルが使用されるようにするか、または、存在する HTML を指定してください。別の方法としては、指定されている場所にその HTML ファイルを置いてください。

FRM-18118: Javai.DLL がありません。

原因: Developer Server が、Windows NT のような Microsoft Windows 環境で機能するには、DLL'javai.dll'が存在し、%ORACLE_JDK%¥bin ディレクトリに置いておく必要があります。この%ORACLE_JDK%に、有効な Java のインスト

ール場所が入ります。

処置: javai.dll が%ORACLE_JDK%¥bin ディレクトリに存在するかを確認し、必要であれば、Oracle JDK を再インストールしてください。

FRM-18119: ORACLE_JDK 変数が設定されていません。

原因: Developer Server が機能するには、環境変数 ORACLE_JDK が、有効な Java のインストールの場所を指している必要があります。この変数は、Oracle Forms のインストール時に Oracle Installer によって設定されています。

処置: 環境変数 ORACLE_JDK を作成、または更新して、有効な Java のインストールの場所を指す値を設定してください。

FRM-18120: libjava.so がありません。

原因: Developer Server が Solaris 環境で機能するには、有効な JDK が存在し、パスに置いてある必要があります。

処置: 有効な JDK がパスに存在するかを確認し、必要であれば、JDK を再インストールしてください。

既知の制限事項

このリリースについての Forms バージョン 6.0.5 の既知の問題点を以下に説明します。

値リスト・ウィザード

値リスト・ウィザードを使って値のリストを作成し、2 度以上 Query Builder を起動させて SQL の問合せを作ると、すでに存在している Query Builder 上で Form Builder が異常終了する場合があります。

V1-V2-V8 移行: 破損した DEFAULT.ORA ファイル

default.ora ファイルを使用して、V1-V2-V8 の移行を実行するときに、default.ora ファイルが破損していると、V1-V2-V8 移行プログラムが起動できなくなります。 default.ora ファイルを削除するか、正しくフォーマットされた default.ora ファイルを使用すると、V1-V2-V8 移行を実行できるようになります。

ADT 列の参照

表に ADT 列があり、その ADT 定義が現行スキーマでない場合に、Form Builder は ORA-4043 の障害になり、Forms Runtime も障害になります。これを避けるために、ADT タイプの定義が表と同じスキーマで作成されていることを確認してください。

クライアント・マシンでの Forms アプレット署名の登録

Form アプレット署名の登録に必要な Dev.x509 は、
\$Oracle_Home/forms60/java ディレクトリにあります。

LOB のサポート

Forms 内での LOB サポートは、Oracle8 8.0.5 および Oracle8i 8.1.5 データベースに接続しているときに機能します。

Web アプリケーションの MDI ウィンドウ

Web アプリケーションの MDI ウィンドウを「x」アイコンをクリックして閉じても、When-Window-Closed トリガーは起動しません。

検索と置換: 大文字小文字の区別をつけた一致

プログラム単位内の「検索と置換」ダイアログで、大文字と小文字の区別をつける場合の一一致が、小文字の文字列に対してしか正しく動作しません。これは、Forms と Reports の「PL/SQL の検索と置換」でも発生します。

リリース 7.3.4 以前のデータベースに対する OPEN_FORM の問題

プログラム単位（トリガーではない）でカーソルを開き、そのままオープンにしておいて、別のセッションで open_form を実行すると、呼び出し側のフォームをシャットダウンさせるときに、アプリケーション全体が終了てしまいます。これを再生させるには、呼び出し側のフォームが open_form スタックの中に必要です。

V1-V2-V8 の移行: PL/SQL V2 での予約語の置換

PL/SQL バージョン 1 からバージョン 2 以上への移行中、新しい予約語が既存の表や列の名前にあると、問題が生じます。たとえば、VARIANCE は PL/SQL バージョン 2 以降では、新しく予約語になりました。これらの予約語の中には、表や列名を参照するための識別子として、二重引用符で囲んだ大文字のキーワードで使用されているものがあります。リリース 6.0 の V1-V2-V8 コンバータ・ドキュメント内に記述されているように、新しい予約語が使われている箇所をすべて、固有の新しい識別子に置き換えることをお奨めします。

対話モード・プロパティの動的設定

Forms では、次のようにして動的に対話モードの設定ができるようになります。

```
set_form_property('form_name', INTERACTION_MODE,  
                  BLOCKING/NON_BLOCKING);  
  
get_form_property('form_name', INTERACTION_MODE,  
                  BLOCKING/NON_BLOCKING);
```

アップグレードの互換性

Forms 4.x から Forms 6.0 へのアップグレードをサポートします。バージョン 3.0 以前からアップグレードするためには、まず最初に、上記のバージョンにアップグレードする手順を行ってください。

Solaris 上でレイアウト・エディタを起動した場合の VGS エラー

キャンバス上でイメージ項目とサウンド項目の組合せを使用中にレイアウト・エディタを起動すると、VGS エラーになることがあります。これは、製品上の問題点で、Oracle Developer 6.0 のパッチの対象として扱う予定です。

Solaris の場合のキャラクタ・モードでのラジオ・グループ

Solaris 版の最初のリリースでは、キャラクタ・モードのフォームにラジオ・グループをサポートしていません。

Reports

サポートする PDF

Adobe Acrobat Reader は、Report Builder で生成された.PDF レポート・ファイルに英語以外の数種のキャラクタ・セット言語や Unicode キャラクタ・セットが含まれていると、そのファイルを読むことができません。

PDF ページ幅の制限

Adobe Acrobat Reader には表示制限があります。処理できる最大ページ幅は 45 インチです。レポートのページ幅を 45 インチより大きく設定して PDF フォーマットで作成すると Reader には何も表示されません。

Advanced Network Option

Reports 多層サーバーは、現在、Advanced Network Option をサポートしません。

Reports Web カートリッジおよび Reports Web CGI の認証ダイアログ

Reports Web カートリッジおよび Reports Web CGI の認証ダイアログを使用する場合は、REPORTS60_OWSMAP 変数で参照される URL マッピングファイル内(Reports Web CGI の場合は REPORTS60_CGIMAP 変数で参照される URL マッピングファイル内)の dummy キー項目の server の値を、実際に使用する Reports 多層サーバーの名前に合わせて変更する必要があります。

Netscape および HTMLCSS 出力の問題点

Netscape のウィンドウ・サイズを変更すると、ページが歪み、再ロードが必要になる場合があります。また、8 ポイントより小さいフォントではボールド体属性が失われます。

Web プレビュー・オプションを使って、ブックマーク付きの Reports を表示するとき、ブックマークのフレームはリフレッシュされません。レポートを表示するたびに、新しいブックマーク・フレームが表示されます。関係のないフレームを削除するには、ブラウザを終了して、再起動する必要があります。

Netscape の問題により、2 バイトのフォント名を使った HTML スタイル・シートは正しく表示されません。

Reports と Graphics の統合

Graphics 表示をレポートに統合する場合、データベースの接続時に必ず接続文字列を指定してください。 LOCAL 環境変数が定義されていても、接続文字列を指定しないと、正しく統合されません。

既知の問題点

Reports バージョン 6.0.5 に関する既知の問題点はすべて、この項に記述します。制限事項を、データ・モデル、Reports と Express の統合およびレイアウト・モデルの 3 つのカテゴリに分けています。

データ・モデル

問題: 「ツール」->「作業環境」->「オープン時にレポート・エディタを表示しない」を「オン」にしても「オフ」にしても、モジュールを開いたとき、レポート・エディタが最初に開かれることはありません。

対処法: 「ツール」->「レポート・エディタ」を使用してください。

Reports と Oracle OLAP Server の統合

問題: Express データベースが英語以外のキャラクターセットの場合、データが正しく表示されません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: パスワードを必要とする Express データベースをアタッチできません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: インデントと階層のレベルが表示されません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: 「マトリックス」と「グループ別マトリックス」タイプのレポートで、次元の値が、あらかじめ定義されているデータベースの順序に関係なく、アルファベット順にソートされます。Selector ツール、Sort、または、Top/Bottom を使用しても、表示の順序を変更することができません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Reports Builder から Express に接続するとき、Express 接続が定義されていない場合は、エラー・メッセージ REP-6029 が出ますが、ポインタが砂時計のまま表示されます。

対処法: マウス・ポインタは機能していますが、外観が「使用中」から「通常」に戻されていない状態です（すなわち、矢印に変わらずに砂時計のままになっています）。

問題: Express の問合せの作成時に、多くのメジャーを組み込む（たとえば、大きいデータベースを接続しているときに'>>' を使うなど）と、Report Builder をロックしてしまう場合があります。

対処法: メジャーは一度に 1 つを選択してください。

問題: Express の問合せを含むレポートを Web に展開する場合、Express のログイン・ポックスが表示されません。したがって、ユーザーは接続を指定できず、レポートも実行されません。

対処法: これは予定どおりの動作です。RDBMS 接続と同じ現象で、同様に「解決」することができます。

1. パラメータ・フォーム・エディタで使用可能なウィザードの EXPRESS_SERVER パラメータを使用し、手作業でそのパラメータをパラメータ・フォームに追加します。
2. レポート用の cgicmd.dat ファイルに、EXPRESS_SERVER パラメータを指定します。
3. EXPRESS_SERVER パラメータの構成要素として、ユーザー・パラメータ

タを作成し、実際の EXPRESS_SERVER パラメータを組み立てます。

問題: このリリースでは、パラメータを Express 間合せに渡すことはできません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Express データが、常にアルファベット順にソートされています。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

サポートする Oracle OLAP Server のバージョン

このリリースでは Oracle OLAP Server 6.2 を使用してください。

必要なデータベースのバージョン

Reports と Oracle OLAP Server の統合を利用するためには、Oracle8 8.0.5 NT Server に接続してください。

レイアウト・モデル

問題: ランタイム・オプション - DESTYPE システム・パラメータに値'PREVIEW'は無効です。

対処法: レポートの定義で、システム・パラメータ DESTYPE にデフォルト値として'PREVIEW'を設定します。

問題: データベースへのレポートの保存と、データベースのレポートのオープンが失敗します。

対処法: 旧バージョンの Reports を使用して、データベースのレポートを開き、ファイル・システムに保存します。

問題: ボイラープレートのテキストの値を 1 バイトからマルチバイトに変更すると、強制終了になります。

対処法: ボイラープレート・テキストを更新する前に、フォントをマルチバイトのフォントに変更してください。

問題: マルチバイト: 動作中のプレビューアで「すべて選択」を行うと、強制終了になります。

対処法: オブジェクトの「すべて選択」を行うには、オブジェクト・ナビゲータまたはレイアウト・エディタを使用してください。

問題: ヘッダー/トレーラ・セクションにレポート・ウィザードを使用すると、メインのレイアウト・セクションが無効になります。

対処法: その他のデフォルト・レイアウト・ツールを使用してヘッダー/トレーラ・セクションのレイアウトを作成するか、または、これらのセクションにデフォルトを適用するときに、レポート・ウィザードを使用してデータ・モデルを変更しないようにしてください。

問題: 名前プロパティおよびコメント・プロパティが欠落しているオブジェクトのレイアウトがあると、プロパティ・パレットで「検索」機能を使用するとき、Reports がハンギングします。

対処法: パレットで「検索」機能を使わずに、オブジェクト・ナビゲータを使用して、オブジェクトの名前を変更してください。

問題: Web 用のレポートを作成するとき、出力が期待どおりになっているかを確認するために、Report Builder から Web ブラウザへの切り替えを繰り返していると、Builder に戻ろうとした際に、Report Builder がハンギングします。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

Web ウィザード

Web 用のレポートを作成するとき、Web ウィザードでテストをしていると、レポートがハンギングすることがあります。対処法は現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

バージョンの互換性

異なるリリースの実行可能プログラムを混在させることは、サポートしていません。

例: Report Server リリース 1.6.1 を、リリース 6.0 の実行可能プログラム CLI コマンド (rwcli60)、Queue Viewer (rwrqv60) でアクセスする場合。

検索と置換: 大文字小文字の区別をつけた一致

プログラム単位内の「検索と置換」ダイアログでは、大文字と小文字の区別をつける場合の一一致が、小文字の文字列に対してしか正しく動作しません。これは、Forms と Reports の「PL/SQL の検索と置換」でも発生します。

PL/SQL バージョン 1 からバージョン 2 以上への移行中、新しい予約語が既存の表や列の名前にあると、問題が生じます。たとえば、VARIANCE は PL/SQL バージョン 2 以降では、新しく予約語になりました。これらの予約語の中には、表や列名を参照するための識別子として、二重引用符で囲んだ大文字のキーワードで使用されているものがあります。リリース 6.0 の V1-V2-V8 コンバータ・ドキュメント内に記述されているように、新しい予約語が使われている箇所をすべて、固有の新しい識別子に置き換えることをお奨めします。

レポートの幅と高さプロパティの場所

旧バージョンではレポートの幅と高さは、レポート・レベル・プロパティで設定しました。Oracle Reports 6.0 では、ユーザーが、レポートのそれぞれのセクションに異なる次元を設定できるようになりました。したがって、幅と高さのプロパティは、レポート・レベル・プロパティから、セクション・レベル・プロパティに移っています。

Graphics

既知の問題点と対処法

問題: オブジェクト・ナビゲータから、「保存」ボタンまたは[Ctrl]+[s]キーを使う場合、最初に、現行表示に対する「図表」ノードをクリックしてください。

そうしないと、図表は保存されません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

問題: オブジェクト・ナビゲータから、 [Ctrl]+[w]キーを使って表示を閉じる場合、最初に現行表示に対する「図表」ノードをクリックしてください。そうしないと、図表は閉じられません。

問題: Column/Plain タイプのチャートは、チャート・ウィザードによって、他のチャート・タイプに変更できません。これ以外のチャート・タイプは、タイプ・プロパティを選択することによって、チャート・ウィザードを介して変更できます。

対処法: この問題が発生したら、OG バッチ・エンジンを閉じ、続行してください。

問題: ポストスクリプト・プリンタを使用して OGD ファイルを印刷すると、イメージが 4 ページにわたって印刷されます。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

問題: 「サウンド・ボリューム」ボタンが機能しません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

問題: Graphics 内の記号が、適切に印刷されません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

問題: ブラウザの Graphics 表示を取り出そうとすると、「別名で保存」ダイアログ・ポップスが表示されることがあります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

問題: すべての文字パラメータは、表示を実行する前に初期化してください。パラメータを NULL に初期化するには、文字列"" ""を使用します。

問題: オブジェクト・ナビゲータの垂直線が、最後のオブジェクトよりも拡張されて表示されることがあります。これは、このように表示されるだけで、機能には影響しません。

問題: Builder から Graphics Runtime を終了した後、レイアウト・エディタのオブジェクトを選択または操作する前に、まずオブジェクト・ナビゲータ・ウィンドウをクリックしてください。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて FIX 予定です。

Solaris 用 Graphics カートリッジ

Oracle Developer 6.0 for Sun SPARC Solaris R6.0 の製品版には、Graphics カートリッジは含まれていません。

OG.PLL ライブラリ

og.dll ライブラリは、標準インストールではインストールされません。このライブラリは、「Benefits and Features demos」に含まれており、完全インストールまたはカスタム・インストールの一部としてインストールされます。

RUN_PRODUCT ビルトイン

Graphics の RUN_PRODUCT ビルトインは、Solaris 版の今回のリリースでは、サポートされていません。

Query Builder

Query Builder の日付フォーマット

新しい環境変数 BROWSER_DATE_FORMAT により、アプリケーション全体におけるデフォルトの日付フォーマットが設定できるようになりました。この設定は、データ・エディタで入力する日付および結果ウィンドウで表示される日付の、デフォルトのフォーマットになります。

データ・ディクショナリ表を変更する問合せ

Query Builder と Schema Builder は、Oracle データ・ディクショナリのパブリ

ック・シノニムを変更するスキーマの問合せをサポートしていません。たとえば、ALL_OBJECTS、ALL_TYPES または、ALL_TAB_COLUMNS など、データ・ディクショナリ・ビューと同じ名前の表を作成することはできません。

結果ウィンドウでの Oracle8 サポート

Query Builder では、結果ウィンドウに次のものを表示することはできません。

- ラージ・オブジェクトや、データベース・ファイル(BFILE、BLOB、CLOB、NCLOB)
- 結果ウィンドウ上の NLS 列 (NCHAR、NVARCHAR2)
- 列オブジェクトまたは参照オブジェクト

Schema Builder

Schema Builder の日付フォーマット

新しい環境変数 BROWSER_DATE_FORMAT により、アプリケーション全体によぶデフォルトの日付フォーマットが設定できるようになりました。この設定は、データ・エディタで入力する日付および結果ウィンドウで表示される日付の、デフォルトのフォーマットになります。

データ・ディクショナリ表を変更する問合せ

Query Builder と Schema Builder は、Oracle データ・ディクショナリのパブリック・シノニムを変更するスキーマの問合せをサポートしていません。たとえば、ALL_OBJECTS、ALL_TYPES または、ALL_TAB_COLUMNS など、データ・ディクショナリ・ビューと同じ名前の表を作成することはできません。

Procedure Builder

追加メッセージ

PDE-PEP014: プログラム単位<プログラム単位名>は、その名前がビルトイン・パッケージの名前と対立したために、<プログラム単位名>に改名されました。

原因: バージョン 1 では、Procedure Builder によって、ビルトイン・パッケージと同じ名前のプログラム単位を作成できました。バージョン 2 以降では、これができません。ビルトイン・パッケージと同じ名前のプログラム単位をロードすると、Procedure Builder では、そのプログラム名を一意に改名します。

処置: 必要であれば、ロードする前にそのプログラム単位名を変更し、参照部分もすべて、そのプログラム単位名に更新したことを確認してください。

Windows 固有のビルトイン

Developer/2000 の旧バージョンでは、Windows 固有の DDE ビルトインへのコールが、Windows 以外のプラットフォーム上で正しくコンパイル、実行されるように、stub ライブラリをアタッチする必要がありました。現在では、その必要はなくなりました。ただし、Windows 以外のプラットフォーム上で Windows 固有のビルトインを実行させようとすると、次のメッセージが生成されます。

FRM-40735: トリガー<トリガー名>が未処理の例外を引き起こしました。

ORA-06509, 00000, 「PL/SQL: ICD ベクトルが、このパッケージに対してありません。」

検索と置換: 大文字小文字の区別をつけた一致

プログラム単位内の「検索と置換」ダイアログでは、大文字と小文字の区別をつける場合の一致が、小文字の文字列に対してしか正しく動作しません。これは、Forms と Reports の「PL/SQL の検索と置換」でも発生します。

ヘルプ/クイック・ツアー: クイック・ツアーが正しくインストールされていない場合のエラー

ユーザーがヘルプ/クイック・ツアーをクリックしてエラーが生じた場合は、ク

イック・ツアーのファイルが正しい場所にインストールされていません。再インストールしてください。

V1-V2-V8 移行: 破損した DEFAULT.ORA ファイル

default.ora ファイルを使用して V1-V2-V8 の移行を実行する場合、破損した default.ora ファイルがあると V1-V2-V8 移行プログラムが起動できなくなります。default.ora ファイルを削除するか、正しくフォーマットされた default.ora ファイルを使用すると、V1-V2-V8 移行を実行できるようになります。

V1-V2-V8 の移行: PL/SQL V2 での予約語の置換

PL/SQL バージョン 1 からバージョン 2 以上への移行中、新しい予約語が既存の表や列の名前にあると、問題が生じます。たとえば、VARIANCE は PL/SQL バージョン 2 以降では、新しく予約語になりました。これらの予約語の中には、表や列名を参照するための識別子として、二重引用符で囲んだ大文字のキーワードで使用されているものがあります。リリース 6.0 の V1-V2-V8 コンバータ・ドキュメント内に記述されているように、新しい予約語が使われている箇所をすべて、固有の新しい識別子に置き換えることをお奨めします。

各国語サポート

全ての言語に共通の既知の問題点

問題: Forms では、フォームが Builder から実行された場合（すなわち、ラン・フォームのデバッグ・バージョンを使用した場合）に、PL/SQL が NLS の設定を無視します。

対処法: TO_CHAR を使用し、NLS_NUMERIC_CHARACTERS を設定して項目をフォーマットすることで回避します。

問題: ADD_TREE_NODE のマニュアルでは、これをプロシージャと記述してい

ますが、実際は関数です。

対処法: 英語のマニュアルでは、このコードを正しく記述しています。

問題: F50GENOPTS アクションが、Form Builder のオプションとしてリストされています。Project Builder では、ユーザーが「Form Builder 実行モジュール」を選択し、「タイプ編集」を選び、「BUILD」アクションを編集すると、F50GENOPTS が表示されます。

対処法: これは、実際には機能します。名前の誤りです。

問題: Form Builder では、ユーザーがテキスト・オブジェクトを描いた後、そのフォントを変更すると、コピー、貼り付けおよび削除キーが機能しなくなります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Oracle Terminal のユーザー・インターフェースは英語で表示されます。ご了承下さい。

問題: 英語以外の言語で、関数の構文パレットの定義が次のようにになっています。

```
FUNCTION function_name RETURN data_type  
/*declarations*/  
BEGIN  
statements  
END /*function_name*/;
```

この最初の行は、「IS」という語で終わっていなければいけません。すなわち、「FUNCTION function_name RETURN data_type IS」になります。

対処法: 正しい構文を使用してください。

問題: Unix プラットフォームの場合、オンライン・ヘルプは英語です。

アラビア語での既知の問題点

問題: 右から左へ入力するキャンバスで表示されるグラフでは、Y軸が左側ではなく右になります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: WebForms では、デフォルトのキャンバス方向が右から左向きの場合、スクロール・バーが、デフォルトで右ではなく左に設定されています。

対処法: 次のとおりです。

1. Form Builder でフォームを開きます。
2. データ・ブロック・オブジェクトを拡張します。
3. 影響のあるデータ・ブロックをクリックします。
4. マウスの右ボタンをクリックし、プロパティ・パレットに進みます。
5. 「スクロール・バー」エントリまでスクロール・ダウントします。
6. 逆方向プロパティを「はい」に設定します。
7. 再生成して、実行します。

問題: Form Builder では、タブ・キャンバスの方向を変更すると、正しく再表示しません。

対処法: レイアウト・エディタを閉じてから、再度開いてください。タブ・キャンバスが正しく表示されます。

ヘブライ語での既知の問題点

問題: ヘブライ語は、NLS_LANG パラメータを Hebrew_Israel.IW8MSWIN1255 に設定してインストールします。これにより、MS Window のコード・ページ 1255 がインストールされます。かわりに ISO8859P8 キャラクタ・セットの使用を希望するお客様もいます。

対処法: NLS_LANG にあるコード・ページ文字列を、手作業で ISO8859P8 に変更してください。

問題: 右から左へ入力するキャンバスで表示されるグラフでは、Y 軸が左側ではなく右になります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: WebForms では、デフォルトのキャンバス方向が右から左向きの場合、スクロール・バーが、デフォルトで右ではなく左に設定されています。

対処法: 次のとおりです。

1. Form Builder でフォームを開けます。
2. データ・ブロック・オブジェクトを拡張します。
3. 影響のあるデータ・ブロックをクリックします。
4. マウスの右ボタンをクリックし、プロパティ・パレットに進みます。
5. 「スクロール・バー」エントリまでスクロール・ダウントします。
6. 逆方向プロパティを「はい」に設定します。
7. 再生成して、実行します。

問題: Form Builder では、タブ・キャンバスの方向を変更すると、正しく再表示しません。

対処法: レイアウト・エディタを閉じてから、再度開いてください。タブ・キャンバスが正しく表示されます。

日本語での既知の問題点

問題: Translation Builder は日本語版ではサポートしません。

問題: Net8 プロトコル・アダプタのうち、Named Pipe、IPX/SPX、LU6.2 は日本語版ではサポートしません。

問題: キャラクタ・セットが JA16EUC の場合に、モジュールを Oracle データベースに保存できません。

対処法: 将来のバージョンにて FIX 予定です。

問題: Developer では、どんな 2 バイト言語でインプリメントしても、1 バイトのフォントの字体 (Arial など) を使用して編集すると障害が起きます。これは、Developer のどの編集フィールドでも発生します。

対処法: 1 バイトのフォントのかわりに、ローマ字を表示する 2 バイトのフォントを使用して、回避してください。

問題: Windows から Solaris に、(半角カタカナを使用して) 長さが 30 バイト以上ある名前の付いたオブジェクトを持っていくことができません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Query Builder の結果の書式を整えるための位置合わせプロパティが、正しく機能しません。

対処法: ローマ字、数字、半角カタカナだけは、サポートされています。

問題: 中国語文字、日本語の漢字などの DBCS(2 バイト・キャラクタ・セット) 文字をドラッグ・アンド・ドロップすると、文字が変わります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: 「Configuring the Oracle Developer Server」用の Oracle Information Navigator (OIN) を実行中、インデックスが表示されず、いくつかのセクションにアクセスできなくなることがあります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Information Navigator の「アプリケーション作成ガイド」のうち、第一部 付録のページへのジャンプが正しく動作しません。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: Forms の Web での実行時にキー操作のヘルプ表示に使用される、<Oracle_Home>/forms60/admin/resource/JA/fmrpcweb.res ファイルは SJIS の日本語で提供されます。

対処法: fmrweb.res に改名して使用してください。fmrpcweb.res ファイルはテキスト形式です。必要に応じてテキストエディタで直接編集することで表示を変更できます。日本語を使用する場合は、Forms Server を実行するときの文字コード(Windows NT の場合は SJIS)を使用してください。

問題: Unix プラットフォームの場合、「スタート・ガイド」と「アプリケーション作成ガイド」のオンライン・マニュアルは英語です。パッケージに付属しているマニュアルを参照してください。

韓国語での既知の問題点

問題: Developer では、どんな 2 バイト言語でインプリメントしても、1 バイトのフォントの字体 (Arial など) を使用して編集すると障害が起きます。これは、Developer のどの編集フィールドでも発生します。

対処法: 1 バイトのフォントのかわりに、ローマ字を表示する 2 バイトのフォントを使用して、回避してください。

問題: 中国語文字、日本語の漢字などの DBCS(2 バイト・キャラクタ・セット) 文字をドラッグ・アンド・ドロップすると、文字が変わります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: 韓国語の文字は、Web に展開したとき、ボイラープレートで壊れます。

対処法: Extras ディレクトリに提供されている dll をインストールしてください。

詳細は、「その他」の項を読んでください。

スロバキア語での既知の問題点

問題: Oracle Installer で NLS_LANG を SLOVAK_SLOVKIA.EE8MSWIN1250 に 設定してしまう問題があります。これは、綴りの誤りです。 SLOVKIA ではなく、 SLOVAKIA です。

対処法: インストレーションを完了してから、NLS_LANG の値を環境変数で変更してください。

中国語（簡体字）での既知の問題点

問題: 問合せを生成する「条件」パネルを使用することができません。記号が表示されません。これは中国語文字が表や列の名前に使用されているときにだけ、発生します。

対処法: 問合せを手作業で入力して、対処してください。

問題: Developer では、どんな 2 バイト言語でインプリメントしても、1 バイト のフォントの字体 (Arial など) を使用して編集すると障害が起きます。これは、Developer のどの編集フィールドでも発生します。

対処法: 1 バイトのフォントのかわりに、ローマ字を表示する 2 バイトのフォントを使用して、回避してください。

問題: キャラクタ・セットを ZHS16CGB231280 から、ZHS16GBK に変更すると、Project Builder の故障を引き起こします。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: 中国語文字、日本語の漢字などの DBCS(2 バイト・キャラクタ・セット) 文字をドラッグ・アンド・ドロップすると、文字が変わります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

問題: 中国語（簡体字）の NT でだけ、Project Registry のファイル名を選択しているときに、プロジェクト・ウィザードで文字が切り落とされます。

対処法: 中国語（簡体字）の Windows NT でだけ発生します。対処法は現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

中国語（繁体字）での既知の問題点

問題: Developer では、どんな 2 バイト言語でインプリメントしても、1 バイトのフォントの字体（Arial など）を使用して編集すると障害が起きます。これは、Developer のどの編集フィールドでも発生します。

対処法: 1 バイトのフォントのかわりに、ローマ字を表示する 2 バイトのフォントを使用して、回避してください。

問題: 中国語文字、日本語の漢字などの DBCS(2 バイト・キャラクタ・セット) 文字をドラッグ・アンド・ドロップすると、文字が変わります。

対処法: 現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

カナダフランス語での既知の問題点

問題: カナダフランス語は、Oracle Installer で表示される言語のリスト上の選択肢ではありません。

対処法: Developer のカナダフランス語サポートを、直接インストールすることはできません。対処法は現時点ではありません。将来のバージョンにおいて修正予定です。

その他

Extras ディレクトリの内容

次の表に、インストール CD に含まれる Extras ディレクトリの内容を示します。

このディレクトリは、これらのリリース・ノートまたはその他で参照されることがあります。

ディレクトリ	内容
PJC	Heavyweight JavaBeans と相互使用可能な一般的な JavaBean ラッパーを使用したコード例。
Reports/Docs	Reports に関する特別なドキュメンテーションを含む。このディレクトリにある readme.txt を読んでください。

ドキュメンテーションに関する既知の問題点

ドキュメンテーションに記述された次の例が、機能しません。

```
DECLARE
    htree      ITEM;
    find_node   NODE;
BEGIN
    htree := Find_Item('tree_block.htree3');
    find_node := Ftree.Find_Tree_Node( htree, 'Zetie',
        Ftree.FIND_NEXT,
        Ftree.NODE_LABEL, Ftree.ROOT_NODE, Ftree.ROOT_NODE );
    find_node := Ftree.Find_Tree_Node( htree, 'Doran',
        Ftree.FIND_NEXT,
        Ftree.NODE_LABEL, find_node, find_node);
    IF NOT Ftree.ID_NULL(find_node) then
        Null;
    END IF;
END;
```

次のコードをコンパイルすることができません。

エラー: "識別子 NODE を宣言する必要があります"

これは単に NODE ではなく、Ftree.NODE とします。